

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム (B)

岐阜県：NPO法人 可児市国際交流協会

可児市多文化人材育成推進事業

～取り組みからみる地域の日本語教室のあり方と地域での体制づくり～

【人材育成推進委員会】(取組1)

目 標

地域企業が求める人材、また、地域社会とどう関わればいいのかヒアリングと意見交換を行う。
H24年度は、第1年目として、体制整備のうち「関係づくり」を目指し、
本事業の目的や主旨を理解していただき、本事業でどんな学習をしてきた外国人が
いるのかを委員会で把握してもらう。

可児工業団地管理センター 副理事長

【中小企業への就職について】

本事業の取組で中小企業にも焦点をあてていくようにしよう。
当社においての日本人の新卒採用状況や、外国人と日本人の採用・雇用)受け入れ方の違いについて聞く。
本事業の取組のオフィス・マナーで用いる演習手法をどのように取り入れていくか検討する。

市役所秘書課 人事課

【公務員を目指す外国人への対応について】

日本生まれ、日本育ちの子どものうち、その子どもたちが地域社会でどう受け入れられているのか。工場や派遣会社・企業に勤めるだけでなく、外国人にも「公務員」というチャンスはどの程度あるのか。公務員を目指す外国人への対応は何か。地域でどのように日本語支援をしていけばいいのか。本事業の取組のビジネス・マナーにどうつなげていけばいいか検討する。

可児商工会議所 青年部

【中小企業への就職について】

以前、外国人を雇用した時のこと・地域には、どのような職種を求める外国人がいるのか・今後どうやって人として育てていきたいか・お客様の接し方や面接時の注意点を聞く。

KYB 株式会社 人事課

【外国人を多く受け入れる企業の課題について】

幼少の頃から日本の公立校に通い日本人と同様の教育を受け、ネイティブレベルの日本語力を持っているながらも安定した職業に就けないのはなぜか。
外国人が、不安定ではあるが短期間で高収入が得られる派遣会社を選択するからなのか。それとも正社員で雇用してもらえない現実があるからなのか。地域の企業であるKYB株式会社に外国人雇用について、外国人の働きについて社内の現状をヒアリングし、日本語教室にフィードバックする。

市役所 地域振興課

【まちづくり・人づくりの取り組みについて】

可児市の課題として「言葉が使える」ことで、行政が考えるところは、まず「通訳」はツールとして「言葉」が使われるのであって、ほとんど、その人の資質が問われる。
地域でどんな日本語教育が必要になるのか。行政が発想の転換を要えなければ、民間は変わらない。
人材育成という観点で、今一度考えなければならぬ。

文化庁 運営委員

《成果・課題》

- ・本事業の取組について、地域の企業・行政に説明することで、関心を持ってもらうことができ、「人材育成事業」とするならば、単年では成り立たないこと、継続的に取り組まなければいけないことを理解してもらった。
- ・「外国人」だからというより、「現代の若者」の甘さ、社会人として不足しているもの、それは、日本語力より、人の資質によるものかもしれないということを知ることができた。

- 次に続く取組にどう反映させていくか。
- 外国籍の子どもの多くが在籍する公立高等学校と意見交換をすれば、将来性が見えやすい。次世代を担う子どもたちに地域に在籍する自覚、生きていく力を養うには。



外国人が労働力としてだけでなく『人』として認められる社会にするには、企業・行政にまず働きかけをしなければならない。その関係づくりの第一歩として、地域で活躍されている方々に直接、生の意見をいただいた。
当初のイメージは、一同に集まり、会議形式にする予定であったが、そのような場合は、堅苦しくなり、言いたいことも言えない恐れがあると考え、運営委員のメンバーが個々にヒアリングする形となった。

【人材育成のための講義】(取組2)

目 標

取組1のヒアリング事項を参照に必要なテーマを掲げ、企業・行政・外国人スタッフから様々な視点でご講義いただく。
講義で学んだことを取組3の講座につなげていく。

可児工業団地管理センター 副理事長 豊島 正治 氏

テーマ：企業が求める人材

概要：国籍問わず、会社で働くとはどういうことかを知るために、日本の企業・企業運営・会社の組織について詳しく説明。
採用面接で評価されること、求められる能力、外国人に求めるもの、コミュニケーションを支えるものとして、尊敬・信頼・感謝が大切であることを学ぶ。

《受講者の声》

今までコミュニケーションが出来るなら、働けるだろうと思っていたけど、今日話を聞いて、それだけでは足りないということが分かった。

外国人は、日本で生活するなら日本人とほぼ同様に頑張らなければならない。でも、日本語が出来ない人のためにも考えていかなければならないと思う。

日本人の上司や会社員は、外国人と一緒に働くために協力しようとしている。外国人もそのためにルールを守らないとお互いうまくいかないということが分かった。

多文化共生マネージャー全国協議会事務局長 時光 氏

テーマ：日本のオフィスで働くということ
～外国人職員の視点からⅠ～

概要：オフィスで働くための服装・身だしなみ、挨拶用語、電話の受け応え、書類の扱い方、時間の考え方、行政機関・日本の職場独特の文化など、体験談を交えながら分かりやすくお話しいただいた。

すごく細かいことで、上司に怒られたり、服装のこともかなり大変なことだと初めて知った。

外国人の目線で日本の職場がどう見えるのか興味深かった。日本人が職場に外国人を受け入れる準備や一緒に働く上で心がけることなど学ぶことができた。

「決して日本人のようなやり方をマネしない」という発言が印象に残った。自分らしくあることの大切さがよく伝わった。

元中濃振興局相談員 吉田 よしえ 氏

テーマ：日本のオフィスで働くということ
～外国人職員の視点からⅡ～

概要：外国の職場では良くても、日本では良くないこと、オフィス・マナーを中心に多文化な職場で共に働くためにどうしたらいいかお話しいただいた。

一番大切だと思ったことは、「自分からやる」ことと努力すること。

日本人にとって、当たり前と感じることに疑問を持って、いる点を知ることができ、新鮮だった。

外国人として、悩んだり、困っていたことが、国籍に関係ないことが分かった。



講義の様子

【人材育成のためのオフィスマナー講座】(取組3)

目標

自国では良くて日本のマナーだとどうしてダメなのか。文化比較をしながら、異文化をしっかりと理解し、学習する。
受講生を(取組1)人材育成推進委員会につなげ、『人材』として紹介し、今後の雇用・採用検討につなげていただく。

多文化演劇ユニットMICHUによる 演劇手法を用いたワークショップ



母国のあいさつの仕方の紹介



名刺交換の練習



電話応対の練習



乗車時の上座・下座について



面接の練習

多文化演劇ユニットMICHUとは

可児市文化創造センターalaでは、外国人と日本人との交流を演劇によって促進しようと、「多文化共生プロジェクト」を実施しています。毎年たくさんの方が参加し、言葉が通じなくても一緒に演劇を作って友だちになっています。そのメンバーから生まれたのがMICHUです。多文化という「未知」のフィールドに「道」を作ろう、という思いがこめられています。可児市国際交流協会にサポートしてもらいながら、MICHUメンバーがむずかしい情報をわかりやすい演劇にし、体験しながら楽しく学べるワークショップを作っています。言葉はポルトガル語、英語、日本語など、いろいろ!!防災ワークショップなど災害で外国人が困



講座の内容：各2時間

- 【1】社会人としてのマナー
- 【2】職場のルール
- 【3】話し方とふるまい
- 【4】名刺交換と電話の対応
- 【5】面接の受け方



現在、中小企業において、就職後のオフィスマナーを中心とした新人教育を行っているところは非常に少ない。
ましてや、外国人にはオフィスマナーができる期待すらしていない。
ところが、実際外国人が日本人同様のマナーを身に付けば、職場環境にスムーズに入れると考えていることが多い。日本人独特のマナーを習得することにより仕事を上でのコミュニケーション能力も高まる。

伝えたいことをゲームや芝居の中に盛り込むことで、参加者の日本語能力に関わらず参加、体験することができるプログラムになっている。

《成果・課題》

- ・参加者のアンケートから「日本の文化やマナーを知ることができた」「あいさつなど以前から知っていたマナーも使うタイミングが分からず使えなかったが、今回使うタイミングを知り、職場で活用した。その結果、職場の人とのコミュニケーションが取れるようになった」などの声をもらった。
- ・指導者である演劇ユニットMICHUのメンバーにも改めて文化の違いやビジネスマナーを学ぶことが出来た。さらに、プログラムを新しく作成したことで、ワークショップファシリテーターとして参加者にとって何が必要なのか、どう伝えればいいのかを学ぶことが出来た。

- 受講者の就業希望先(例えば、事務職・サービス業・アルバイト)により求めている情報も違ってくるので、参加者を絞りこむことも必要。
- 日本語能力が高い外国人でも「オフィスマナー」と聞くと、躊躇してしまう人が多いので、呼び込み方の工夫が必要。

【子育てに必要な日本語】(取組4)

目標

子育てを通して、親が関わる各分野の方々と共に学び、子育て中の地域外国人のバックアップ体制を整備する。

こどもや親をとりまく環境



子育て日本語教室

地域でこどもや親を見守ってくださる皆様に協力いただきながら...



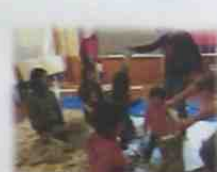
小児科医による講演：お医者さんが知りたいこと
「病院のことば」を学ぶ日本語教室



地域の保育園園長による講演：保育園での生活
園のことば～保育園ママさん体験～日本語教室



給食体験
いなかの給食を試食



こどもに使うことば
～児童館体験～日本語教室



日本語専門家による講演
「外国人の子どもの教育における課題」

【子育てに必要な日本語：教材検討】(取組5)

目標

今後、主体的に使えるような教材を本事業の講義・講座をステップにし、検討する



多文化共生サークル

【抜粋元教材】

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック教材例集：文化庁
- ・「子育て同好会誌集」：(財)若手国際交流協会
- ・すぐに使える！6か国語保育の会話＆文書便利帳
：外国人の子どもの保育研究会
- ・道かないで～8か国の保育日常会話集：神戸アジア保育交流会

【参考資料】

- ・多言語問診票（可児市内総合病院の実物）
- ・受診判断チャート（講義：小児科医資料）
- ・外国人の子どもの保育～親たちの要望と保育者の対応の実態～：大場幸夫
- ・多文化子育て調査報告書：多文化子育てネットワーク
- ・園で使うことば集（市内保育園のお知らせ冊子）

成果

- ・小児科医、保育園、こども発達センター、市役所こども課、教育研究所など、こどもを取り巻く地域の関係者からの情報提供やバックアップ体制の関係づくりができた。
- ・実施団体のEarth Babiesメンバーがそれぞれの特技（保育士、看護師、料理）などを活かし、同じ子育てをする親として、交流しながら参加できた。

課題

- ・対象者を子育て中の親にしぼり、時間も平日としたことで参加者が限られ参加者数が伸びなかった。
- ・国籍に偏りがあった。フィリピンコミュニティーへの働きかけやPR方法の検討が必要である。
- ・募集媒体、フレビアや協会のHP、facebook、チラシ配布等今後も募集方法を始めから準備する。

【シンポジウム】(取組6)

目 標

本事業で取り組んだ内容を地域の企業や住民に周知させる

《参加者》

36名



取組事例報告の様子



パネルディスカッションの様子



来場者の様子

2012年度 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 道県日本語教育実践プログラムB
2012年度 可児市多文化人材育成推進事業

日本語教育シンポジウム

取り組みからみる地域の日本語教室のあり方と地域での体制づくり

日 時

2013年3月16日(土)
13:00~17:00
(12:30受付)

場 所

多文化共生センター フレビア
可児市下恵土1185-7
(可児駅うら)

プログラム

13:00~13:30

第Ⅰ部 日本語作文コンテスト

テーマ:「大切な人・大切なもの・大切なこと」

小学生・学生・一般部門 優秀賞3名 奨励賞10名 選出
第一次審査を通過した13名が作文を朗読

13:40~14:40

第Ⅱ部 多文化人材育成推進事業 取り組み事例

進行: 小島祥美 (愛知淑徳大学 准教授)

総評: 米野治子 (東海日本語ネットワーク 副代表)

① 人材育成推進会議とN1対策講座

近藤利恵 (NPO法人可児市国際交流協会 事務局長)

② 演劇ワークショップで伝えるオフィスマナー

田室寿見子 (多文化共生演劇ユニットMCHII コーディネーター)

ヒグトヴァネッサ (多文化共生演劇ユニットMCHII 代表)

③ 子育ての日本語

池辺恭子 (多文化共生育児サークルEarth Babies 代表)

14:45~15:45

第Ⅲ部 シンポジウム

「住みよいまちづくりと人づくり」

~可児市の日本語教育体制整備の取り組み~

進行: 小島祥美 (愛知淑徳大学 准教授)

パネリスト

豊島正治 (岐阜県可児市工業団地管理センター 副理事長)

岡田明文 (可児市商工会議所青年部)

坪内豊 (可児市役所地域振興課 課長)

周雨てい (オフィスマナー講座 受講者)

ヒグトヴァネッサ (オフィスマナー講座 受講者)

各務真弓 (NPO法人可児市国際交流協会 事務局長)

16:00~17:00

第Ⅳ部 交流会 及び 作文コンテスト表彰式

多民族の料理をご用意いたします。美味しくながら、交流を図ります。

当日フレビアカフェ実施: フィリピンのアドボランチを ご興味いただけます(有料)。 託児あり: 要 事前申し込み

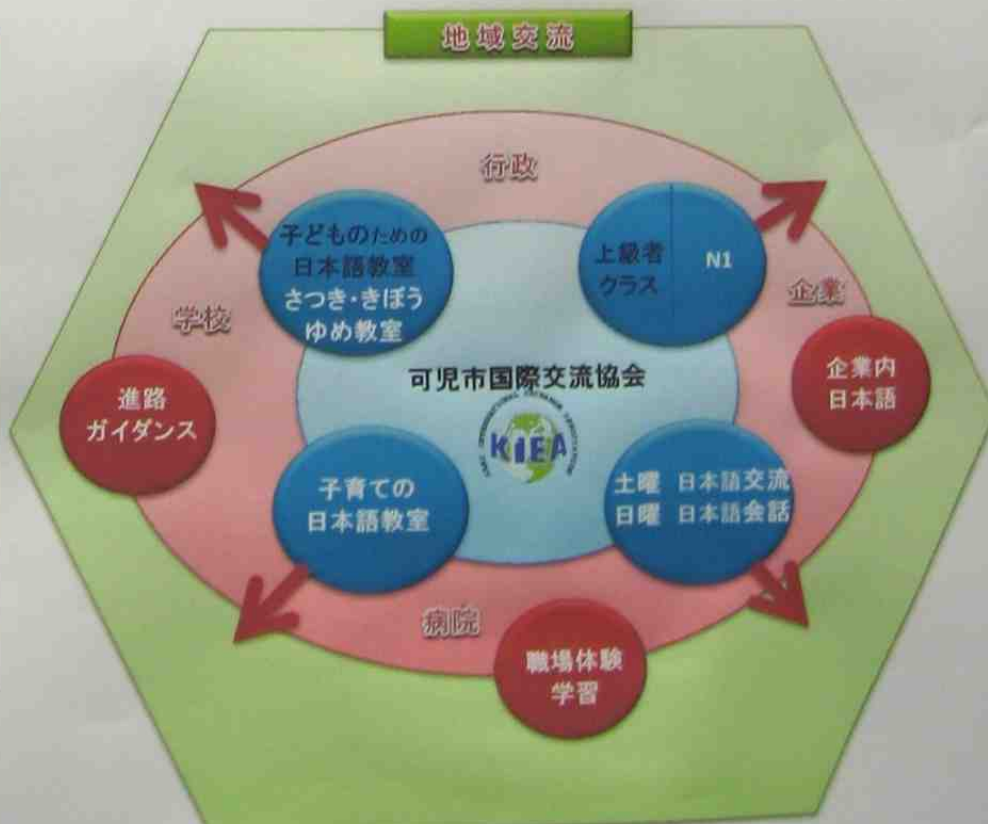
申し込み・問い合わせ先: NPO法人可児市国際交流協会事務局 Tel. 0574-60-1200 FAX 0574-60-1230
Email: nockia@ma.ctk.ne.jp

*裏面申し込み用紙あり

《成果・課題》

- ・他地域からの聴講者もあり、関心の高さを伺えた。
- ・「可児市多文化人材育成推進事業」というテーマが広域であり、日本語関係者ではない一般参加者の方にとっては、今までの体制のどこに問題があり、日本語教室の体制をどのようにしていくことが望ましいのか分からなかったかもしれない。
- ・日本語教室に関わっている講師やサポーター、子どもの教育に携わっている方の参加が少ないことこそ、体制整備の課題である。

- 協会として取り組むためには、既存の教室で関わった人々の意見を取り入れるというプロセスが不十分だった。
- 外国人を育成すると同時に、指導者の人材育成も必要であり、それこそが、地域社会に結び付いていくことだという点を日本語教育関係者・外国人にも発信し続けていかなければならない。



フレビア

FREVIA

つながる世界がここにある

いろんな国の人たちと交流してみませんか？
新しい自分を発見しませんか？

みんなで作る
多文化共生のまち
可児



「フレビア」とは、全国888の市から選ばれた国際的friendship(友情)とcivilization(文化)から
編まれた施設で、友情の精神を胸にし親やかに受け合っていけば、互いの文化は徐々に理解され
深まっていくという意味が込められています。



フレビアは、4つの機能を柱として多文化共生を進めます。

情報提供

日本語
学習支援

外国人
相談

交流の場

フレビア
FREVIA

可児市多文化共生センター

〒605-0202 岐阜県可児市東1-1155-7 TEL 0574-55-1122 FAX 0574-55-1730

ホームページ <http://www.cik.ne.jp/frevia>

Facebook <http://www.facebook.com/Frevia.kani>



開館時間 / AM9:00 ~ PM10:00

休館日 / 木曜日 年末年始(12月29日・1月4日)

使用料 / 館内利用料(1時間) 200円



【子育てに必要な日本語】 子育てを通して、地域は人々でつながる。子育てで地域を築く。 日本語を学ぶ機会を設ける。

こどもや親をとりまく環境



子育て日本語



【子育てに必要な日本語: 教材検討】 教材、教材に合うような教材の作成、教材をスタッフにし、提供。



【教材検討】

教材、教材に合うような教材の作成、教材をスタッフにし、提供。

【教材検討】

教材、教材に合うような教材の作成、教材をスタッフにし、提供。

成果

成果